

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 179号

「召される時を間近にして」

Ⅱ テモテ 4 章 6, 7 節

島 隆三



パウロは自らの召される日をハッキリ自覚して、決別の言葉を語る。

第1に、戦いを立派に戦い抜き、第2に、決められた道を走りとおし、第3に、信仰を守り抜いた。

第1に、戦いを立派に戦い抜いた。パウロはコリントの手紙で、伝道の生涯で出会った数々の困難について述べている。「苦労したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、…」(コリント二 11 章) 主イエスの苦難に与る伝道者の苦難は、想像を超えるものであった。しかし、どんな困難の中でも、彼は屈しないで戦い抜いた。

第2に、決められた道を走りとおした。パウロにはパウロの道、ペトロにはペトロの道があった。私の場合は、最初の教会に迎えられたのが1969年、教団紛争の勃発した年、あれから40数年、初めの頃は教団紛争に明け暮れた数年、それに伴い私たちの属する群が分離し、大きな痛手を負った。辛い辛い日々であった。最後に神は仙台の第2の母教会へ導いてくださり、かつての青年会の仲間たちと楽しく数年を過ごしたが、あの大地震が起きた。自分の牧師人生の最後がこの大震災かと思った。しかし、これが自分に決められた道であれば逃げるわけには行かない。もうひと踏ん張り「決められた道を走りとおした」とパウロのように言うことが出来るまで励もうと思った。

第3は、信仰を守り抜いた。これは、使徒パウロでさえ「信仰を守り抜いた」と言っていることに注意すべきだ。パウロ先生なら当然でしょう、多くの人々に福音を語り、困難に屈せずいくつもの教会を建て上げ、世界を走り回って伝道したのだから、と私たちは思いやすい。しかし、パウロにはそれだけにまた激しいサタンの攻撃もあった。だから、「自分の体を打ちたたいて服従させる」と言っている(コリント一 9: 27)。今日も、パウロのように世界を飛び回って伝道している伝道者が、足許をすくわれて墮落したという話も聞く。あの人なら大丈夫という人は一人もいない。サタンは我らよりも賢いのだ。パウロは手紙の中で繰り返して、「私のために祈って下さい」と祈りを要請している。だから、人生の最大の事業は「信仰を守り抜くこと」だと教会の姉妹に語っている。「主よ、終わりまで仕えまつらん」(讚美歌 338) の讚美歌のとおり、最後まで信仰を守り抜くお互いでありたい。

(東調布教会牧師)

霊 想



「私を憐れんでください」

日本基督教団

豊中教会牧師

大門 義和

明治以来、日本には、聖書の御言葉を「知識や教養」として受け入れる人が大勢おられた。しかし、信仰は知識ではない。信仰は生活である。アシラム運動は知識や教養としての信仰の強化ではなく、「御言葉への聴従と祈り」を基とした日常生活での信仰生活の強化、訓練である。「御言葉への聴従と祈り」を拒否するキリスト者はいないでしょう。しかし、「アシラム」に否定的な人は決して少なくない。

どんなに正しいことであっても、人を媒体として伝えられる事柄では、誰がそのことを伝えるかが大きな問題である。たとえば、学校で教える教科の内容は余り変わらないが、教える先生に対する生徒の好き嫌いがその教科への好き嫌いと同比例

する。

その意味で、キリスト者が問われていることは、語る御言葉ではなく、誰が御言葉を語るかである。その人の生き方が問われる。家族からも、地域の友人・知人からも、キリスト者の言葉ではなく、その人の生き方が見られているのである。

日本には昔から、「一家に一人の悪人がおればその家は安泰である」との言い伝えがある。悪いのは、あの人でも社会でもない、「私なので」と神様の前に悔い改める人の存在である。昔の日本では祖母や母が家族の過ちを自分の過ちのように、「私が悪いのです」と受け止めていた。まさに、主イエス・キリストは私たち人間の罪を責めず、私たちの罪を自分の罪のように受け入れ、十字架について、私たちの罪の赦しと和解の手を差し伸べて下さった。

キリスト者は救われたのは自分の善行のように高慢になっていないだろうか。特にプロテスタント信仰者は他者や他宗教を否定的に見下していないだろうか。サムエルは、「高慢は偶像崇拜に等しい」(サムエル上十五・二三)と教えている。実は他者や他宗教を「見下す」姿が偶像信仰である。

最近はこの世界でも、人(先輩)との人格的な触れ合いから学ぶことよりも、パソコン等を用いてあらゆる

情報を得ることが出来る。物を媒体として得る信仰的な知識と、人と触れ合う人格的な関係の中で得る信仰の知識は、似ているようで、実は非なるものである。信仰とは知識ではない。信仰とは家族や人々との生活である。

これからの世界は過去の全ての営みが参考にならない程の不安な覆われた闇となるかもしれない。道の無いところに、一人一人が孤独の中で自分の道を切り開いていかなければならない。当然のように、誰の心にもストレス、不安、恐怖等が支配する。世界がどんなに不安や闇や孤独に支配されても、キリスト者は本當の支配者を知っている。「御言葉」である。不安や闇の中であっても、御言葉が私たちを照らす。「すべてのは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン」(ローマ十一・三六)のように、私たちは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのである。現実がいかに絶望的であっても、御言葉の約束を想起し、御言葉の約束を信じるのが信仰である。

パウロはたくさんさんの教会を作った。しかし、信仰が組織化されると、パウロはすべての教会から理解されず追い出された。その苦悩の中でた

どり着いた信仰は、「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」(ローマ十・十七)であり、「わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」(第一コリント二・二)であった。パウロには御言葉の約束、祈る以外に頼るべきものはなかった。

アシラムは、キリスト教の強化ではない。アシラムは、御言葉と祈りの生活を通して、「私」が「御言葉」とつながること、「私」が「主イエス・キリスト」につながれることである。キリストにつながることは、御言葉を心に宿すことである。御言葉を宿すとは、野菜が「ぬか」の中につけられて、漬物に変えられるように、御言葉づけになって、キリストの僕に変えられることである。

アシラムのゴールは、一人一人が日々、御言葉と祈りの生活を通して、信仰を誇る人になることではなく、「神様、罪人のわたしを憐れんでください」(ルカ十八・十三)と心底祈れる人になることである。



証立 「苦勞や試練を却つて喜ぶ」 池の上キリスト教員 三木 勝喜

昭和13年九人兄弟の六番目に生を受けました。現在食品製造を営む会社で海外事業や技術を管掌する仕事をしております。23年前のイースターに受洗しました。身内には厳しかった父が九十歳で亡くなって直ぐ、飯島延浩兄弟（山崎製パン社長夫妻）を訪れ、どうしたらあなたのようになれるのですかと尋ねました。これから起こりそうな恐ろしい事を想像しての事でしたが、兄弟は私の心を見透かしたように、ご自分が主宰して隔週もたれているバイブルスタディーにいらつしやいと言ってくれました。それ以来この学びも五百回を超えますが、兄弟が受けたその様々な試練と恵みによって信仰が揺らぐことなく、益々深められている姿を目のあたりにして、いまだ遠いものですが、この世の戦いの中にあつて徐々にみ言葉、聖心、聖霊の力を感じられるようになっていくことは感謝です。中学生になると両親は六人の子供をひばりが丘にありません、全寮制の自由学園にいれました。中一から高三までの六人部屋、スバルタ教育と噂された厳しい規律の学校でした。そこで私は十年間寮生活を送りました。お蔭で肉体的に強められ今日までこられたことを感謝しています。

創立者の羽仁もと子氏は熱心なキリスト者であり、教育者、同時に婦人解放を願っていたこともあつて母はその教育方針を信奉して子供達を入学させたと後から聞きました。決して豊かでない家庭でしたが、私が大学を出ると父は大金を出して米国の厳しい（毎学期半数以上が落第する）某大学に編入させました。頭が良いわけではなく、勉強してこなかったこともあつて、授業、アルバイト、炊事健康維持と最後はノイロゼになつていたようです。父の会社に入社しましたが、恵まれた立場を帳消しにしたいと毎日夜中まで土曜も含めて働きずめでした。娘は可愛がつてもらつた記憶がないと今も責められています。家内とは入社2年目、月給二万円の時に結婚しました。三人の子供の養育では経済的にも、大変苦しい思いをさせてしまい、未だに頭が上がりません。父が老い、長男に社長を譲ることになりましたが、自分のやり方と違つたと、父が亡くなるまで双方で大きな戦いがありました。私はその狭間で大変苦しみの中にありました。ある時父がお前が社長をやれといました。私は即座にお父さんそれは間違つていると、断つたことがあります。父は私（孝行者とおもつて

いたようで）に背かれて烈火の如く怒りました。（父の死後、病室から遺書が見つかりましたが同一の理由で私は封印しました）。

父が亡くなつて直ぐ、飯島兄弟に相談させてもらったのはそのような背景があつたからです。今日まで飯島兄弟から多くのアドバイスやみ言葉をいただきました。一言一言はつきり頭に刻んでおりますが、祈りも足らず、今日においても悔い改めの日々が続いています。先日「もつと聖書を読みなさい、そこには必要なものが全て備わっているのだから」と仰つていただきました。今では様々な苦勞や試練は却つて喜ぶべき事として感謝できるようになったことは、何物にも代えがたい恵みと信じています。しかし会社の中ではみ言葉の実践は大変難しいものがあります。「さばいてはいけません」（マタイ7・1）は大切なみ言葉ですが、きずかない内に裁いている自分があります。十数年前に会社の命で中国の合弁事業を拾年間、半駐在でやりましたが、今では中国一の会社になつていることも自分の想いで仕事をしてこなかつた証しにもなつていきます。「私の兄弟達、様々な試練に会う時には、それをこのうえもない喜びとおもいなさい。」（ヤコブ1・2）栄光を主にあれ、ハレルヤ。

二〇一四年一〇月十二日（日）午後三時〜十三日（月・祝）午後二時まで、神戸市東灘区御影町の「母の家ベテル」で、第四十八回関西アシラムが開催された。参加は十八教会、二八名（信徒十六名、教職十二名）であつた。主題は「教会への奉仕と伝道」、主題聖句は「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くては励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に



第48回 関西アシラム報告
脇田 真一

教えるのです。」(テモテⅡ 四章二節)と「どのような時にも、霊に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。」(エフェソ六章十八節)である。

十二日(日)の「開会の祈り」は小島十二師が担当し、「開心の祈り」は脇田真一師が担当した。今回は助言者として大門義和師(日本キリスト教団豊中教会牧師)を招き、同師が「福音の時」と十三日の「朝の祈り」を担当してくださった。また、十三日の「充滿の時」は平方美代子師が担当し、「静聴・分かち合い」は金武士師が担当した。

助言者は「福音の時」に、人と人との触れ合いにより得る信仰について説明され、聖書を信じて従うことが大切であり、御言葉に聴き、祈ること、人は御言葉によって立て直されるとの神の深い恵みについて話された。また、「朝の祈り」では次のようなことが語られた。神が愛されているのは全ての人の救われることである。ペテロは罪の赦しを得るために悔い改め、洗礼を受けなさいと勧める。御言葉を読み、御言葉の後ろに立つ。御言葉に聴く。朝起きたら御言葉に聴こう。祈ろう。このようなことを分かりやすく語り、深い信仰の導きと励ましを戴いたことに心から感謝している。

第46回城北アシラム報告

荒井 光夫



二〇一五年二月十一日(水)、池の上キリスト教会を会場として城北アシラムが開催されました。

「救いを得させる神の力」を主題に掲げ、六十二名が参加して行われました。

最初のオリエンテーションで

は、山口紀子姉(更生)からアシラム全体の説明と注意が語られ、続く開心の時は、エレミヤ書三十三章二〜三節が読まれ、主を呼び求める者に、理解を超えた大いなることを告げてくださる主の前に心を開くようお勧めがあり、皆さんからニードの発表がありました。

その後、九つの祈りの細胞に分かれ、お互いにニードを分かち合い祈り合いました。

主の前に重荷をおろして晴れやかになった一同がチャペルに集い、記念写真を撮った後は、コインニアホールで美味しい食事を頂きながら、親しい交わりと参加者の紹介が教会毎に行われました。

午後の静聴の時は、杉本和生師(新宿西)により、ローマ書八章を黙読した後、皆さんから心に示されたみ言葉の発表がありました。

続く福音の時は、大浜光子姉(池の上)の司会で始まり、席上献金がさげられた後、千代崎備道師(池の上)より「信仰による義」の力(ローマ書一章十六〜十七節、ハバクク書二章四節)と題してメッセージを頂きました。主な内容として①ハバククにおける信仰から、正しい人はその信仰によって生きる②パウロにおける信仰から、義人は信仰によって生きることを知ったパウロは救われ変えられた③アシラムにお

ける信仰による義から、神様にニードを祈る時、み言葉により信仰によって私たちが変えられることなどが語られました。

最後の充滿の時は、横山義孝師(東京新生)より、ヨハネの福音書一章十四〜十八節からお勧めがあり、皆さんからその日に頂いた恵みや決意の発表がありました。そして、一同が輪になって賛美し、「イエスは主なり」の唱和と祈りで終わりました。

今回のアシラムで、神様がご自身の栄光をお一人一人にみ言葉をもってあらわしてくださいましたことを覚え、心から感謝いたします。

地区アシラム予告

●浦和別所教会アシラム

とき 15年7月11(土)〜12(日)

助言者 島隆三師(東調布教会牧師)

●函館栄光キリスト教会アシラム

とき 15年10月11(日)〜12(月)

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本キリストチャン・アシラム連盟
振替口座 東京〇〇一〇〇一-四五五八